

ワクチン接種とアナフィラキシー

京都橘大学
教授 西本 泰久

- 1) アナフィラキシーとは命にかかわることがある全身アレルギー（過敏）反応です。その多くは、注射では5分以内、昆虫の針は10分後、食物・飲み薬は30分後に発症します。ヒスタミンなどの物質が関与して発症する事が知られています。

【アナフィラキシーの症状】

- ・ 唇やのどの違和感
- ・ 腫れた感じ呼吸困難
- ・ 息ができない。空気の通り道が「詰まった」感じ
- ・ 意識が遠のく感じ（血圧が下がった症状）
- ・ 死の予感
- ・ 全身のかゆみ、紅潮
- ・ ゼーゼー、ヒーヒー鳴る。声がかすれる
- ・ 腹痛、吐き気、嘔吐、下痢などです。

- 2) アナフィラキシーへの対応としては、ワクチン接種後30分の経過観察が必要です。

【アナフィラキシー発症時の対応】

- ・ アドレナリンの筋肉注射（成人で0.3mg）
- ・ 酸素投与
- ・ 急速輸液（細胞外液）＋ショック体位
- ・ 心停止に備える（心肺蘇生＋AED） 等です。

- 3) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、そのウイルス（SARS-CoV-2）はエンベロープ（脂質の膜）を持ったRNAウイルスです。そのためアルコールや石鹸が有効です。

- 4) COVID-19のワクチンとしては何種類のものが開発されています。それぞれに、特徴がありますが、副反応の、特にアナフィラキシーの発生に関してはファイザーのワクチンで100万回に11.1回といわれています。その他のワクチンでも、大きな差はないと思われます。この頻度は、他のワクチンよりやや高い傾向にありますが、「リスクを意識してワクチン接種を躊躇うようなレベルではない」と思われます。

【ワクチンの問題点】

- ・ 変異ウイルスに対しての有効性
- ・ 免疫がいつまで続くのか不明
- ・ 人種差について効果の差があるのか不明 等です。

5) COVID-19 の集団免疫が、ワクチンによってできることで予防接種を受けられない新生児いや免疫不全の人、重症化する可能性がある高齢者などを感染から守ることもつながります。